

第十二講 ウル第三王朝

グチ人（前 2190-2120 年頃）

アッカド、ウル、ウルクの征服と破壊

アッカドの完全破壊（前 2151 年頃）

アッカド地方に盤踞：各王相互に対立 21 人—平均 5 年
同盟体制

漸次アッカド人と同化

南部の独立：ウルク・ラガシュ

ティリガン（前 2120 年頃）

南部の反乱（ウルクのウトゥヘガル中心）

ドブルムの戦い

ウルクのウトゥヘガル（前 2120-2113 年頃）

「世界四方の王」

帝国組織の再編・・・自己の官僚

ウルク市民の派遣

ウル第三王朝（前 2113-2005 年頃）

ウルナンム（前 2113-2096 年頃）

「シュメールとアッカドの王」

国土再建と社会政策

遠征・・・不明

↓

法典編纂

窃盗・反逆禁止・貧者保護・統一度量衡の制定

運河開削・農業の改良・神殿建設

シュルギ（前 2096-2049 年頃）

ウル領の拡大

エラムとアンシャン征服

アッシュールを属州化

ティグリス川東部のアッシリア・エラムの中間地帯を併合

ルルビ人他、山岳民を討つ



アッシリア人商業居留地（アナトリアと北シリアに広がる）を支配

重要貿易路を確保

帝国支配体制を確立

中央集権的官僚組織

地方の知事 **ensi**

定期的に移動

税金の徴収・首都への報告

各州の軍隊

王に直属する駐屯軍司令官の指揮下に置かれる

常設の王室走者隊員（情報伝達員）

国庫

アムル人の移動とウル第三王朝の滅亡

前 2200 年ころより前 2000/1900 年ころにかけて

シリア起源、牧羊地を求めて

北メソポタミアに→ザグロス山脈に突き当たる

南下→ウル第三王朝末（イビシン時代：前 2029–2005）に危機をもたらす

農夫や傭兵などとしてメソポタミアに早くから定住

イビシン第 6 年（前 2023）にウルの防衛ライン突破

メソポタミア南部の諸都市は孤立

大規模な飢饉の発生（前 2022 年）

イシンのイシュビ・エラ、ウルより独立（前 2017 年）

マリ（前 1831 年）、エシュヌンナ（前 2027 年）、ラルサ（前 2025 年）、バビロン

（前 1898 年）、アッシュール（前 2005 年）にアムル人の王朝成立

前 2005 年 エラム人によるウル攻略→ウル第三王朝の滅亡

史料

『ウルナム法典』前文

「・・・アヌとエンリルがウルの王権をナンナに戻した後、その時ニンスンの子、ウ

ル・ナンムが、彼を生みし愛する母のために、公平と真実の原則に則って、行った……。ついで力強き戦士、シュメールとアッカドの王ウル・ナンムがナンナの力とウトゥの真実の言葉に合わせてその地に公平を打ち立てた。彼は中傷や暴力、諍いを罰し、月々の神殿の支出を 90 グルのオオムギと 30 頭のヒツジ、30 シラのバターと定めた。彼は青銅で拵えたシラ升を造り、1 ミナの錘を標準化し、1 ミナと関連して1 シェケルの石造りの錘を標準化した。孤児は富裕者の手に渡されることなく、未亡人は強者の手に渡されることなく、そして1 シェケルの男は1 ミナの男に渡されることはなかった。」